

『法王庁の抜け穴』 主要登場人物

アンティムアルマン・デュボワ……フリーメイソン会員で、生理学者。科学至上主義の無神論者。リウマチ性疾患の治療のためにローマに引越す。ジュリアスの義兄。
ヴェロニク・アルマン・デュボワ……アンティムの妻。マルグリット・バラリウルの実姉。夫とローマに長逗留する。信心深い。
ジュリウス・バラリウル……アンティムの義弟。凡庸な道徳と穏健な思想の持ち主。作家で、名譽あるアカデミー・フランセーズ会員に選ばれることを望んでいる。
マルグリット・バラリウル……ジュリアスの妻。ヴェロニク・アルマン・デュボワの実妹。保守的なカトリック信徒。
ジュヌヴィエーヴ・バラリウル……ジュリアスとマルグリットの長女。
ジュスト・アジェノール・バラリウル伯爵……ジュリアスの父。各国の公使を歴任した元外交官。パリの豪華な住まいに隠居している。

DIC F199

K100



法王庁の抜け穴
59.5mm×135mm

しおり（表面）

ラフカディオ・ルーキ……十九歳の青年。ローマで生まれ、父親を知らずに育った。多くの言語を自由にあやつる。パリのカロラのもとに身を寄せている。
カロラ・ヴェニテカ……ラフカディオの情婦。
プロトス……ラフカディオの旧友。詐欺団の《百足組》の首領。変装を得意とする。
ヴァランティーン・ド・サンプリ伯爵夫人……ジュリアス・バラリウルの姉。南フランスのポー郊外の城館に、夫の死後も暮らす。保守的なカトリック信徒。
アメデ・フルリツソワール……ジュリアスの義弟。純朴なカトリック信者。南フランスのポーで暮らす。法王幽閉の話聞いてローマに救出に向かう。
アルニカ・フルリツソワール……アメデの妻。ヴェロニクとマルグリットの実妹。
ガストン・アラファアス……アメデ・フルリツソワールの親友。「造形用ローマ厚紙」を発明し、ブラファアス・フルリツソワール・レヴィシオン商会を設立する。

DIC F199

K100



法王庁の抜け穴
59.5mm×135mm

しおり（裏面）